

令和7年度 第3回地下水採取審査委員会 会議録

- 1 日 時：令和8年3月3日（火）14：00～15：00
- 2 場 所：座間市役所
- 3 出席者：委員 守田委員長、中島副委員長、宮下委員、大木委員
事務局 暮らし安全部長、生活安全課長、副主幹兼環境保全係長、主事
- 4 公開の可否 公開 一部公開 非公開

6 議題

- (1) 座間市地下水保全基本計画改定について
- (2) 令和7年地下水採取実績報告について
- (3) 有機フッ素化合物分析 地下水調査の結果について
- (4) 河川の有機フッ素化合物分析 河川調査の結果について
- (5) 地下水位の変化と今後の対応について
- (6) その他

7 配布資料

- 資料1 出席者名簿
- 資料2 令和7年度第3回地下水採取審査委員会資料
- 資料3 座間市地下水保全基本計画（案）（概要版含む）
- 資料4 令和7年 地下水採取量等の総括
- 資料5 令和7年度 有機フッ素化合物分析調査計画
- 資料6 令和7年度 地下水・湧水中の有機フッ素化合物分析結果（1月分）
- 資料7 令和7年度 河川の有機フッ素化合物分析結果
- 資料8 市内分布結果図（非公開）
- 資料9 市内分布結果表
- 資料10 地下水位の変化と今後の対応について

(1) 座間市地下水保全基本計画改定業務委託について

ア 事務局説明

事務局 今年度行う座間市地下水保全基本計画の改定作業について報告する。なお説明は当該事業の委託事業者から行う。

イ 質疑応答

守田委員長 地下水量の保全に関する事業内容について「目標地下水位」という単語は、それだけ取水すべきという意味に聞こえてしまう。「管理地下水位」などの単語が適切ではないか

事務局 語感としてご指摘の通り。旧基本計画からの用語であり、基本計画だけでなく他の要綱等で使われている可能性もある。単独で変更できるか確かめる。

中島委員 地下水位を記載する際に「GL-Om」という表記は市民に分かりにくいのではないか。また、概要版の表紙にある、地下水の移動の速度1日5mは、値が大きすぎる印象である。川のように流れているかのように捉えられてしまう。

守田委員長 速度は地点によるが、目安として、河川で 1m/秒、地下水で 1m/日と分かりやすく対比することはある。透水係数の大きい礫層であっても数 m/日である。

宮下委員 概要版の「座間市の地下水の特色」とあるが、書かれているのは座間市の特徴というよりも一般的な地下水の特徴である。このタイトルなら、「相模原台地の大きな地下水流動の末端の湧出部になっており、安定した地下水がある」「段丘崖に湧水が位置する」など。座間市の地下水の良さをイメージでき、親しみが持てるように変えてはどうか。

守田委員長 座間市の地下水は特徴的であり、難透水層に隔てられた深層の地下水ではないため、比較的気候の影響を受けやすい地下水と考える。

宮下委員 概要版についてデザインは親しみやすい印象だが、文字や漢字が多い。ルビを増やすなど手に取りやすいものにするよ。

守田委員長 概要版のターゲットを意識して、市民に分かりやすいものにするよ。

事務局 概要版のご指摘に関して、記載内容を検討する。

(2) 令和 7 年地下水採取実績報告について

質疑応答は特になし

(3) 有機フッ素化合物分析 地下水調査の結果について

中島委員 今回も濃度が高く指針値を超過している地点もある。継続監視いただきたい。

(4) 河川の有機フッ素化合物分析 河川調査の結果について

宮下委員 調査日の 1 月 22 日前後では、降水はなかったのか。

事務局 降水はなかった。河川は流れていたのだから、採水は可能だった。

(5) 地下水位の変化と今後の対応について

ア 事務局説明

事務局 今年度の地下水位の変化と、今後の対応について報告する。

イ 質疑応答

守田委員長 座間市の帯水層は特殊な構造であるため、雨の浸透が水収支に影響すると考えている。

例えば埼玉県では、1994 年の渇水時に揚水量が増えて地盤沈下が進行した。それ以降では、地下水位の観測井を設置し、絶えず水位を確認して、マネジメントしている。地盤沈下は実害が生じて困るので、強引に何が何でも揚水を止めなくては行けないが、地下水汚染は回復するのに時間がかかるものの、地盤沈下を重症とすると、地下水汚染は中等症、一時的に地下水位が低下するが雨が降ったら戻るなら軽症である。実害の度合いに投じて対応することが誠実である。

また、警戒水位や注意水位を設定した当初、平年並みの降水量から算定したのではないか。渇水の場合をどれだけ考慮して定めたのか。

事務局 警戒水位や注意水位は、平成 21 年度地下水総合調査委託で検討して設定しているが、その際は平成 21 年より前の降水量を使っている。今を基準に平年並みの降水量を算出すると、警戒水位や注意水位も変わってくるかもしれない。

守田委員長 何を基準に警戒水位や注意水位とするかをはっきりしたほうが良い。

中島委員 今年だけでなく、数年単位の統計を取ったほうがよい。前年のバックグラウンドから少雨が何年か続いたということも考えられる。気候変動などもあるので、長期間でデータを見たほうが良い。

守田委員長 雨が降らない場合やものすごく降る場合などがあると、それによっても地下水位変動も変わるので、今後も検討していただきたい。

宮下委員 1～3 月まで雨が少ないとなると、もしかしたら警戒水位になってしまうかもしれない。その時は委員にも情報提供していただきたい。

事務局 いただいたご意見をもとに対応する。水位がさらに下がったりするときなど、今後も相談・報告させていただく。

(6) その他